

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874300676		
法人名	特定非営利活動法人 福祉サポートセンター県西さわやか		
事業所名	グループホーム 県西さわやか	ユニット名	
所在地	〒306-0433 茨城県猿島郡境町1762-1		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0874300676-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月19日	評価機関 決 済 日	平成27年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・毎年家族会を開催し、家族の方と一緒に食事やボランティア様の演芸を楽しみ、皆様のお話などを聞く機会を設けております。
- ・毎月の入居料は御家族の方に現金で直接持ってきてもらうことによって、面会の機会を増やしています。
- ・今までの生活を継続できるように、出来る事は自分でやれるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

代表者が家族の介護経験から、「穏やかに安心して地域で暮らせるように」という思いに基づき設立した事業所である。
全職員も代表者の思いを良く理解し、チームワークで日々利用者のケアに努めている。
開設10周年記念に造った戸外の足湯を修理して、地域住民に再利用の声かけをしたり、月に数回、事業所内の談話室を開放して、利用者と一緒にカラオケを楽しんでもらっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「潜在能力を活性化させ、自立した生活が送れるよう援助する」を理念のひとつに掲げ、管理者と職員は理念を共有して実践に勤めています。	理念は代表者が事業所設立時に思いを込めて作成したもので、玄関に掲示して全職員で月1回から2回の職員会議や、日々の業務の中で理念について話し合い、共有して実践につなげている。 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念にはなっていない。	代表者や全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念への見直しを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	境香取神社や桜並木等周辺を散歩して、近隣の方と交流をしています。事業所を開放して、カラオケや芋煮会を行い気楽に立ち寄ってもらえる雰囲気作りをしている。	年1回家族会の開催に合わせて地域住民を招待し、会食やボランティアの大正琴の演奏を行うほか、定期的に事業所を解放し、カラオケや芋煮会を開催して、利用者と交流できるよう支援をしている。 地域住民が事業所に立ち寄ったり、赤飯や漬物などのお裾分けを頂くほか、利用者と職員で近隣を散歩して挨拶を交わすなど、地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には利用者と職員とともに参加して、御近所の方々に理解していただけるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して、町職員、民生委員、地区区長、社協職員、理事、ボランティア、地域住民、利用者家族に参加してもらい活動報告や意見交換をしている。	運営推進会議は家族等の代表や町職員、区長、民生委員、地域住民、理事の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 会議では運営状況や空き情報、利用者の状況報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員からでた意見や助言をサービスの向上に活かしている。 委員から利用者に本格的なレギュラーコーヒーを飲んでもらってはとの提案があり、リースのコーヒーメーカーを設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回役場の介護福祉課の課長、その他職員様に出席いただき、情報は頻りに交換している。	管理者は日頃から町に直接出向いたり、電話等で町担当者に事業所の運営状況や空き情報を報告するほか、ケアサービスの課題について相談を行い、協力関係を築いている。 運営推進会議には町担当者の参加があり、介護保険制度改正の説明や要支援の方のサービス利用などについて意見交換を行った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は弊害を理解しているので問題はないと思います。また8月に玄関のドアを開閉が入居者には出来ないよう自動ドアにしました。	身体拘束を行わないことを運営規定や契約書に明記し、入居時に利用者と家族等に説明している。 全職員で身体拘束の内容とその弊害を理解し、日常の支援の中で身体拘束の状態になっていないか、適切に支援が行われているかを確認しながら、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は日中施錠をせず、利用者が自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その通りです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用は知っているが、入居者が同じ町に生活をしているので今のところ活用は一件も相談されていません。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会などには必ず契約に関する説明等を十分にして、理解していただいています。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当然行っています。	利用者からは日々の会話から、家族等からは毎月の利用料支払の来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努め、出た意見や要望は全職員で話し合って運営に反映している。 家族等から「利用者の誕生日を祝いたい」との要望があり、事業所内の部屋を解放し、子や孫が食べ物を持ち寄って誕生会を行った。 年1回の家族会開催時に家族アンケートを実施しており、意見や要望はないが、家族等だけで話し合う時間を設ける等はしていない。	家族会開催時に家族等で話し合える時間を設けること等、家族等の意見や要望を汲みあげる取り組みを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社員の意見は良く聞いているつもりです。今までに問題は起きていません。	管理者は月1回の職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞く時間を設けている。 希望休や備品の購入など、職員の要望に迅速に対応できるように努めている。 「手作り弁当を持って外出支援を行いたい」との職員からの提案で、退職した職員にもボランティアとして参加してもらい、花見に出かけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員の意見は良く聞き、給与や労働時間については向上心を持って働けるよう努めています。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互訪問はやっていないが、勉強会はケアマネーを通してやっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っていること、要望等は出来る限り耳を傾け、納得していただけるよう話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分信頼関係を築けるよう、一生懸命努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めをしっかりとし、利用者と家族が安心できるように努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中、良い関係を築けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てくれる際は、職員や御本人と共にお茶を飲みながら近況報告をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に出かけたり、いつでもお友達が面会に来れる環境を設け、趣味や好きなことが出来るよう支援しています。	職員は利用者からは日々の会話から、家族等からは話を聴いて利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 家族等や近隣の馴染みの人が来訪した際は、お茶を出して居心地よく過ごせるよう支援している。 職員は利用者が行き慣れた店での買い物を支援し、外食や墓参り、馴染みの美容室などに行きたい場合は、家族等の協力を得ながら、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。 利用者が書いた暑中見舞いや年賀状を職員が宛名を書いて送付している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性などを考え、食堂の席や体操・レクリエーションの椅子の位置にも気を配っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方が時々顔を見せに来てくれたりした際は、色々とお話を伺いフォローしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の居室担当者を一人一人決めて、なじみの関係を築くことによって本人の意向の把握に努めています。	職員は日々の支援の中で把握した、利用者の思いや意向をケース記録に記載して全職員で共有するとともに、会話の中から利用者の希望を汲み取って、その人らしく暮らせるように支援している。 意思疎通が困難な利用者の場合は、家族等と話をお聴いたり日々のしぐさや表情などから思いや意向を把握しているほか、意識的に声かけをしてコミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、前担当のケアマネージャーから情報をもらい、初期対応に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の摂取量、水分量を記録したり、入浴時のバイタルチェック、月初めに体重測定を行い状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・家族の意見を取り入れながら、職員のアイデアを加え介護計画を作っている。	計画作成担当者が利用者や家族等の意向と、医療関係者や職員の意見を踏まえて介護計画を作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画を見直すとともに、利用者の心身の状態像に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等に確認している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜勤日誌を用い時間ごとに記録して情報を共有したり、日々の変化を具体的に経過記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要などときには、救急病院等の付き添いも行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社や公園等の散策をしたり、地域のお祭や老人会との交流もあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に職員が付き添い、受診しています。	協力医療機関以外への受診を希望する場合や検査の時は、家族等の付き添いを基本としているが、家族等の付き添いが困難な場合には、職員が付き添うなどの支援をしている。 看護職員を配置してバイタルサインのチェックを行い、健康管理を行っている。 家族等が付き添って受診する際には、日々の状況を話したり記入した紙面を渡している。 受診結果は申し送りノートに記載し、全職員で共有しているほか、職員が付き添った際には、家族等には電話連絡や面会時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が薬の管理や受診の指示、入居者の体調の変化などに対応し適切な判断をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、職員が交代で面会しています。担当医やソーシャルワーカーさんにも直接お話を伺い、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護3くらいまでのかたを受け入れるとパンフレットに記載しており、重度化した場合には、適切に他の施設等を紹介している。	事業所では看取りは行っておらず、契約時に利用者の状態に変化が生じた場合は、かかりつけ医や協力医療機関と連絡を取り、救急医療あるいは緊急入院が受けられるよう説明している。 「急性期症状を発症した場合の確認書」を作成し、書面による意思確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを文書にして職員がわかるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行い、その際には消防署、役場職員の方の指導を仰いでいます。地域の方にも声をかけ、参加していただいています。	地域住民の参加を得て避難訓練を行っているが、最低年2回実施するには至っていない。 避難訓練の記録を残し、結果や反省点を明記して全職員で話し合い、次回の訓練に活かしている。 消防署より避難場所の変更を指摘され、変更している。 災害に備えて、米や水のほかに湯たんぽ、ガスコンロなどを備蓄し、リストを作成して管理をしてはいるが、使用した食物の補充がされていない。	避難訓練は最低年2回の実施と、そのうち1回は夜間想定訓練を実施することを期待する。 備蓄品は賞味期限をリストに記載し、使用した食品等は常備できるように補充することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、丁寧でわかりやすい言葉使いを心がけています。	日ごろから利用者一人ひとりの人格を尊重し、丁寧でわかり易い言葉かけや対応を心がけている。 トイレ誘導時には、周囲の人にわからないようさりげなく声をかけ、プライバシーに配慮した対応を行なっている。 個人情報ファイルは、事務室の鍵のかかる書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りに努め、入居者と職員がコミュニケーションを取ることで御本人の思いや希望に添うようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課をやるにあたって声を掛けた際、本人の希望に添うように配慮しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回、床屋さんに出向いていただき散髪を行っています。希望する方にはヘアダイも支援しています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食、きざみ食、おかゆや食事の量など一人一人に合わせ対応しています。また、片付けやテーブル拭きなども出来る方にはお手伝いしていただいています。	献立は利用者の希望や嗜好を取り入れ職員が作成している。 自家菜園で収穫した旬の野菜や地域住民からのお裾分けを食材に加えている。 利用者は職員と一緒に地元のスーパーマーケットに食材を買いに行ったり、テーブル拭きや挨拶、下膳、洗い物などを行なっている。 職員は利用者と同じ献立を一緒に摂り、話をしながら和やかな雰囲気ですら食事ができるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などを記録し、一人一人に合わせた支援をしています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は、皆職員が口腔ケアに誘導しています。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に誘導して、失敗を少なくするよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄サインを把握するとともに、「生活状況表」を活用して本人に合わせたトイレ誘導や声かけ支援をしている。 利用者がなるべく長く布パンツでの生活を続けられ、トイレでの排泄ができるように、職員は排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をして、便通の把握に努めており、そこから水分や運動などを行い予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴日には、入浴の順番等利用者の希望に添い、気持ちよく利用できるように努めています。	週3回午前入浴を基本とし、順番は利用者の希望で決めている。 入浴を拒む利用者には声かけや誘導のタイミング、職員を替えて無理なく入浴できるように工夫している。 入居して1ヶ月ほど入浴を拒んでいた利用者が、声かけや職員を替えて対応したところ、現在は安心して入浴している。 菖蒲湯や柚子湯、入浴剤の使用など、入浴が楽しみなものとなるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に定めず、本人のリズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をし、服薬時は、職員が見守り介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族会や四季折々の外出、買い物や散歩、野菜の収穫などの機会を設け支援しています。誕生会やクリスマス会のケーキも皆様喜んでいきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	陽気の良い日は、近隣の散歩やド ライブ。季節の催し物や花見もま めに行く機会を設けています。	天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺 の散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わ りを肌で感じられるように支援している。 企画担当職員が年間の外出計画を立て、初詣 やだるま市、ネーブルパークなど、季節に合わ せて様々な場所に出かけている。 家族等の協力を得て利用者の希望する馴染み の店での外食や墓参りなど、外出できるよう支 援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	入居者が希望するのであれば、職 員が付き添い、本人に実際手に とってもらい好みの品物を購入で きるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いたり と、旧知の方とのやり取りを支援 しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	談話室に畳を敷き、それぞれが座 れるようにソファをおいて居心 地の良い空間作りをしています。 そこで、テレビをみたり、おしゃ べりをしたりと入居者の憩いの場 となっています。	談話室には畳を敷き、周囲にはソファを配 置して利用者が各々過ごし易い場所でゆっくり 寛げるように配慮している。 食堂のテーブルには季節の花が生けてあり、 壁には利用者と職員が製作した折り紙の雛人形 が飾られ、季節を感じて過ごせるよう配慮して いる。 各居室や食堂、廊下など順番に、月1回床の ワックスがけを行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人ソファの座る場所が決まっているので、のんびり過ごす事が出来、食堂でも気の合う方と食事できるよう座席の位置も工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていたものを持ち込んでもらい、使い慣れた家具や雰囲気居心地良く過ごせるようにしています。	エアコンやベッド、クローゼットを備え付けている。 利用者は使い慣れた収納ケースやテレビ、椅子などの身の回り品を持ち込んでいるほか、家族写真を飾るなど一人ひとりの生活スタイルに合わせて、居心地良く暮らせるように工夫をしている。 季節毎の寝具や衣類の入れ替えは、家族等の協力を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床をバリアフリーにして、廊下には手すりを取り付けて、自立歩行が出来るようにしています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム県西さわやか

作成日 平成27年9月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間時の非常事態に備えての避難訓練を行う必要性がある。また、備蓄品の充実を図る。	年2回の避難訓練を実施し、夜間想定訓練を取り込む。備蓄品リストを作成し、活用する。	施設内での夜間時の緊急事態におけるスタッフの連携等を確認し、避難訓練に生かしていく。備蓄品を順次購入する。	3ヶ月
2	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念になっていない。	理念の見直しをする。	代表者や職員で話し合い、地域密着型の意義を踏まえた理念を作成し、共有実践したい。	3ヶ月
3	10	家族会での家族に対してのアンケートは実施しているが、家族のみでの話し合いの場を設けていない。	家族会開催時に、家族のみでの話し合いの場を設けたい。	入居者家族の本音や要望等を汲み上げる取組みを行うため、家族だけで話し合う時間を設ける。	
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。